

令和3年度（2021年度）事業者防災訓練 訓練課題対応資料

1. 原子力防災訓練で確認された課題について

令和4年1月28日に実施した原子力防災訓練において確認された問題点／課題について、下記のカテゴリーに分類し、それぞれに対する原因分析、対策案を表-1に示す。

（カテゴリー分類）

- （1）緊急対策本部活動訓練
- （2）応急措置（収束措置）訓練

表-1. 令和3年度（2021年度）原子力防災訓練で確認された課題

分類	項目	あるべき姿	No.	問題点／課題	原因	対策（案）
緊急対策本部活動訓練	社外通報の改善	警戒事態（AL）発生後、速やかにERCプラント班へ事象報告されている。	1	警戒事態（AL）発生後、通報者（環境安全部長）が事故対処室に通報し、その後緊急対策本部が立ち上がった後にERC対応専任者がERCプラント班へ通報しているため、初報としての事象報告まで時間を要した。	原子炉等規制法に基づく事故故障に係る通報連絡と、警戒本部設置後の通報について通報者が異なり、相互連携が十分に取れていなかったため。 （但し、訓練としての訓練通報先の認識が不十分であったことも原因の一因にある。）	原子炉等規制法に基づく通報と、原災法に基づく警戒本部等設置後の通報連絡について連絡先が切り替わること、それぞれの通報連絡者が異なった場合には相互連携を取ること等を関係要領に定め、周知する。
		施設敷地緊急事態（SE）、全面緊急事態（GE）発生後の対応状況が適切なタイミングで通報FAXに記載されている。	2	FAX通報について下記の問題点、課題があった。 (1) SE/GE該当事象発生後の応急措置の概要報告（第25条報告）を、第10条通報様式を用いて続報（FAX第4報）を作成していた。 (2) SE/GE該当事象発生後の通報FAXの発信に間隔が空き、対応状況について適切なタイミングで報告されなかった。	(1)発生事象に対する情報が緊急対策本部に十分に集まらない状況において対策本部活動に混乱が生じ、様式の選択ミスが発生した。また作成後の関係者の内容確認時にも様式の間違いを指摘、是正できなかった。 (2)対応の進捗状況の共有が不十分で、通報FAXに適宜反映できず、適切なタイミングで発信できなかった。また本部内でFAX発信の予定時刻の設定ができていなかった。	(1)事象進展等に伴い使用すべき通報様式について再周知を行い、通報FAX作成の着手段階から使用する様式、発信予定時刻について報告する等、活動要領を見直し再発防止を図る。 (2)現場からの情報収集やCOP作成と並行し、対応の概要が第25条報告に適宜反映されるよう対策本部活動の見直しを検討実施する。例：COP6(事故収束対応シート)の対応実績を通報FAXに転記、反映する等

分類	項目	あるべき姿	No.	問題点／課題	原因	対策（案）
緊急対策本部 活動訓練 (続き)	事故拡大 防止対策 の検討、 実施、報 告の改善	ERC対応専任者によるERCプラント班への情報提供が、COPを用いて円滑に行われている。また、必要に応じてERC保管資料をうまく活用している。	3	ERCプラント班への情報提供について下記の問題点、課題があった。 (1)ERC対応専任者が事象発生時の初期情報となる電源の有無、警報発生の有無等のプラント状態の状況をERCプラント班へ迅速に報告できなかった。 (2)ERC対応専任者からの説明にERC保管資料がうまく活用されなかった。	(1)事象発生時の初期情報が緊急対策本部内で整理できていなかったため、ERC対応専任者へ情報伝達できなかった。(但し、訓練進行上の当日の操業状況の提示方法も訓練結果に大きく影響した。) (2)ERC保管資料は、ERC対応専任者の説明用資料としての位置付けという意識が強く、そもその戦略立案の検討において、各防災組織が図面・系統図等を活用しきれていないため。	(1)事象発生後直ちに集約すべき初期情報をホワイトボード等で整理、共有する仕組みを構築し、整理された情報をERC対応専任者へホワイトボードの写真、COP等により的確に共有する。 (2)緊急対策本部内で図面・系統図等（ERC保管資料と同資料）をより積極的に活用して、その内容をERC対応専任者と共有する。必要に応じてERC保管資料の内容見直しを行う。
		各COPを適切なタイミングで作成し、緊急対策本部内の各係に共有されている。また同時に進捗管理がなされ、内容等の見直しも正確に共有されている。	4	COPの作成について下記の問題点、課題があった。 (1)COPの共有が始まったのはCOP6(事故収束対応シート)からで、COP1～5の情報が共有できていなかった。 (2)COP6(事故収束対応シート)の進捗管理（実績記入）が不十分。また、決定した内容に見直し等が発生した際、その情報（根拠含む）が正確に共有されていない。	(1)各COPの作成、共有が活動の次の次になっていたため。各COPが共有されるべきタイミングに対する認識が各担当係に浸透されていない。 (2)COP6はあくまでツールではあるが、緊急対策本部関係者がCOP6をもとに各対応内容の協議、進捗管理をしながら事故収束に向かう、といった認識が不足していた。	(1)(2)COP本来の趣旨に立ち返り、対策本部活動全体を見直すとともに既存の各防災組織の活動要領とは別に、全体活動としての「緊急対策本部活動要領（仮称）」を策定し、防災組織全体を対象にした教育を実施する。

分類	項目	あるべき姿	No.	問題点／課題	原因	対策（案）
緊急対策本部活動訓練（続き）	事故拡大防止対策の検討、実施、報告の改善（続き）	図面や系統図等を用いて状況の把握、整理を行い、COP6(事故収束対応シート)の戦略を策定し、緊急対策本部内で共有され進捗管理されている。	5	COP6（事故収束対応シート）の戦略対応について下記の問題点、課題があった。 (1)建屋外への放射性物質放出に対する閉じ込め措置に活動が特化し、漏えい源となる建屋内部の破損したウラン取扱設備に対する具体的な処置への検討が不十分であった。 (2)特定事象発生後の応急措置として、給排気設備の停止判断までに時間を要した。	(1)緊急対策本部で活動する各防災組織のCOP6（事故収束対応シート）への関わりが不足していた。また建屋内部の正確な情報を把握するまでに時間を要した。 (2)現場から得られた情報、報告内容が緊急対策本部内で整理しきれず、対応策の協議に時間を要した。	(1) (2)COP6（事故収束対応シート）の緊急対策本部内での共有・活用方法を再検討し、全体活動としての前述の「緊急対策本部活動要領（仮称）」に反映する。 各防災組織による図面・系統図等（ERC保管資料と同資料）の活用、より共有しやすい時系列情報の記録（クロノロジー共有システムへの登録）方法への見直しを行う。
応急措置（収束措置）訓練	現場対応能力の向上	放射性物質の汚染範囲を速やかに推定し、回収及び除染に必要な防保護具を選定し、正しく脱着されている。	6	サーベイメータ、ダストサンプラ等の現場で使用する機器の動作チェックは、現地の測定場所に着いてからではなく、資機材を準備した出発前の段階で行うべきであった。測定場所に到着してから動作不良に気付いたようでは、応急措置に時間を要してしまう。	平常時と異なり、非常時であることを踏まえた活動となっておらず、平常時の使用方法が習慣付いていたため。	個別訓練等で周知徹底するとともに、他の機器についても水平展開する。（災害対策支援拠点に持ち運ぶ機器類等）

以上